

右を向いても左を向いても「巻き」ばかりに見えた女性の髪形だが、最近、それに加えて「盛り」が目に見え始めた。

前髪をふくらませてまとめあげ、高さを出した髪形で、「ボンパドゥール」と呼ばれる。胸元に切り替えのある「姫」っぽいチュニックにこの髪形を合わせる女性が

## 前髪の「盛り」へのこだわり

多い。化粧室の鏡の前で整髪剤の貸し借りとともに交わされる「盛りがいまいち」「盛り、固めない」となどの会話から、「盛り」へのこだわりがうかがわれる。

ふっくらした髪かみの塊かたまりが印象的なので、パンパンに由来すると言われるも違和感がないのだが、パン屋さ

んとは無関係。18世紀のフランス王ルイ15世の愛人だったボンパドゥール侯爵夫人の髪形にちなむ。

元祖ボンパドゥールは前髪を全部ときあげた、すっきりした印象の髪形だが、現代のボンパドゥールは前髪を少し額に垂らしたり、後ろは半分降ろしてカールしたりと複雑なオブジェになっている。

実は米語でボンパドゥールというところ、「ああ、あれね」と連想されるのが、50年代にロックな男性の間で流行した髪形である。エルビス・プレスリーやジューズ・ディーンディーンの、日本では「リーゼント」という呼び名で親しまれる(?)、前髪にボリュームを出し

## コロモのココロ

で持ち上げ固めたヘアスタイル。姫ボンパドゥールとロックンボンパドゥール、とても同じ起源から生まれた髪形とは見えないが、「前髪を重力に逆らって高く盛り」というポイントは同じ。

なぜ、盛るのか? 「髪が高いほうが、神に近い」(The High in the Hair, the Closer to God)「ウ、たとえばロックバンドのライ・コリージョンは歌う。ボンパドゥール夫人の没後、髪は結髪師にはしごが必要なほど高く盛られていった。リーゼントもひさしとみまがうまでに成長した。盛りに加速がかかったのは神に近づき喜ぶゆえか? 姫ボンパは少なくとも、整髪剤メーカーから神様扱いされることにはなりそうですが。(服飾史家)

## 中野香織の